

タイトル	想像してみよう！地球のこと、世界のこと。 自分のできることから行動しよう！ ～Think Globally, Act Locally～		
氏名	大嶋 奈津子		
学校名	同志社国際中学・高等学校		
担当教科	社会科、地歴・公民科		
実践教科	選択授業(現代社会講座)、 世界史A、中学社会	時間数	2時間×4回 2時間×3クラス
対象生徒学年	高校3年生 高校2年生 中学1年生	対象人数	高3 22名(+30名) 高2 89名 中1 12名

カリキュラム案

(1) 実践の目的

・現代社会講座

地球上で起こっているさまざまな問題について、自分たちで考え、今、自分たちにできることから少しずつ行動にうつしていく。行動するために世界のしくみ、現状を学んだうえで、自分たちとは違う考え方、地域、宗教の人々の気持ちや状況を感じられるようになる。日本とそれ以外のいろいろな国の状況、様子を学び、違いを知ること、考えを深め、ものの考え方や視野を広げる。

・世界史A

諸地域世界の接触と交流についての分野で、「ひと」や「もの」が活発に動くことで、東アジア、インド洋などそれぞれの地域で文化が伝えられ発展の歴史を学ぶ。そのうえで、タンザニアの歴史、ムスリムとの交易を通じた発展、奴隷貿易などについてのアフリカ史を深める。

・中学社会（地理）

世界の地域を学び、いろいろな人々の暮らしや生活の様子について学ぶ。特に、タンザニアという日本から離れた地域の学校の様子、自分たちを同じ年代の子どもの生活を想像し、同じ地球に暮らす仲間のことととらえられるようにする。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～4時限 地球上でおこっているさまざまな問題について知り、学ぶ。	講義やフォトランゲージ、視聴覚教材と講義、新聞記事とリサーチなど	地球データマップ、新聞記事、NHKスペシャル(DVD)
5～12時限 学んだ知識を生かして、いろいろな問題を実際に体験して、深めることで、問題点を発見する。個別の問題について、追求する。	ひょうたん島問題「ひょうたん教育の危機」や貿易ゲームを通じて、南北問題を考える。買物ランキング、などを用いて世界の現状を疑似体験し、幸せと消費について考える。 アフリカのタンザニア、アジアのインドでの諸問題を学ぶ	貿易ゲーム一式 アンケート、水問題、児童労働、子どもの権利条約などのオリジナルプリント
13～15時限	インド洋世界を学び、その中で東アフリカ地域の歴史、インド洋貿易などを学ぶ	タンザニアの写真 東アフリカの地図
16～18時限	世界の諸地域の暮らし学んだ上で、タンザニアについて学び日本、アメリカ、ヨーロッパ、中国と比較。違いと同じことを探し、さまざまな人々の暮らしを想像し、つながりをもつ。	タンザニアの写真 東アフリカの地図 DVD 手紙

実践授業の詳細

<現代社会講座>

1. 世界で起きている諸問題について学ぶ。

(1) アフリカなどの食料が不足している国とアメリカや日本などの豊かな国との違いを知り、それらの国々のつながりを学ぶ。(南北問題)

(NHK地球データマップ「飢える国・飽食の国」、オリジナルプリント使用)

- アフリカ(熱帯・亜熱帯の国でもともと肥沃な土地を持つ豊かな国、自給自足できた)
 - ・シエラレオネ…もともとは自給自足が可能で緑豊かな農業国だったが、2002年～内戦がおこり、国民は農業ができない状態になる。
 - ・エチオピア……干ばつが起こる前は豊かだった。100年前は国土の70%が森林だったが、現在は2%までに。森林伐採→干ばつ・不作→薪食料不足→洪水→農業困難で不作という悪いサイクル。
 - アメリカ、日本(温帯、冷帯の国で、土地の条件が良くないので、商業化・工業化)
 - ・大量生産・大量消費によるしくみ
 - ・世界人口の2倍にあたる20億トンの穀物が取引されている。
 - ・高級霜降り肉などの牛にはたくさんのとうもろこしなどの穀物がえさとなっている。
- ⇒アメリカや日本などの豊かな国は、アフリカなどの食料が足りない国の犠牲の上に成立している。

(2) 大量消費社会について学ぶ

(NHK地球データマップ「どうする大量消費社会」、オリジナルプリント使用)

- ・自給自足を行っている国の例
- ・日本、欧米、インドや中国などエネルギーの消費量が増えた背景とその影響

(3) 世界の貧しさについて学ぶ

(NHK地球データマップ「世界の貧しさのためにできること」、オリジナルプリント使用)

- ・ガーナ、サタワル島の比較・貧しい国でも自給自足できるかそうでないかの違い
- ・世界のしくみの成り立ちについて、植民地化・モノカルチャー経済と近代化・グローバル化と新自由主義をキーワードに説明
- ・援助とは何かについて考える。例：タンザニア、ケニア、フィリピン

2. 体験(シュミレーション)やディスカッションにより、問題についての理解を深める。

(1) 「ひょうたん島問題」のワークショップ

目的：南北問題について、いろいろな立場の考えや国の在り方、共生していくために必要なことは何かを考え、ディスカッションし、内容を深める。

方法：5～6人の4グループに分かれ、それぞれの4つの立場の人の意見を出し合い議論する。グループの中で、9つの政策の優先順位を考え、ランキング表にあてはめる。(Aひょうたん島教育委員会、Bパラダイス学校建設運動協議会、Cひょうたん学校教員、Dカチコチ経済人連合会)

→途中で、A B C D同じ立場の人同士で集まって、作戦タイムを設ける

→元のグループに戻り、それぞれグループごとのダイヤモンドランキングを完成させる。

→振り返りのワークシートを記入し、提出

ひょうたん文化の危機 9つの政策

- ①ヒョウタン文化の理解をすすめる、ヒョウタン人としての自覚を高める。
- ②パラダイス学校は認められない。
- ③外国人はヒョウタン教育から排除する。
- ④外国人(とくにカチコチ人)のために国際学校(international school)をつくり、ヒョウタン人の入学は拒まない
- ⑤ヒョウタン学校とは別に、パラダイス人学校をつくり、パラダイス人教育をすすめる。
- ⑥すべてのヒョウタン学校に、外国語担当(カチコチ語・パラダイス語)の補助教員(ヒョウタン語ができる)を配属する。
- ⑦ヒョウタン学校の教師になろうとするヒョウタン人学生に対して、外国語(カチコチ語・パラダイス語)、異文化理解の単位を必修にする。
- ⑧時間割外で、放課後カチコチ文化やパラダイス文化を教える「国際理解教室」を設ける。
- ⑨ヒョウタン学校のカリキュラムを改善し、時間割の中に(カチコチorパラダイス)文化学習コースを設置する。

児童の感想(抜粋)

- ・いろいろな国・民族がいる中で、どうしても高い経済力や技術をもつ国の力が強くなってしまふのは、現代の社会と同じだと思う。そんな中で、うまく共生していくには、立場の強い国が弱い国へ配慮をもつことが不可欠だ。
- ・外国を排除するだけでは、文化の交流ができず、他国の反発をかう。自国の尊重のし過ぎも反発をかう。お互いが理解しあうという意識がなければうまくいかないと思った。
- ・“選択の自由を認めながら、歩み寄って、お互いの文化を知ろう”をテーマに話しあった。
- ・担当の立場は自分の考えと違っていたので、うまく意見が言えず、大変だった。
- ・自分の意見を言うのは、とても難しいということを実感した。
- ・政策を決めるとき、排他的な政策は嫌われ、融和的な政策が優先されることがわかった。

(2) 幸せと消費について考える

質問1 日本人は幸せ??

日本は経済的には世界の大国(GDP2位)だが、GNH(国民幸福度指数)90位、自殺者数は世界で10番目に多い。

経済的には発展していないが、GNHの高い国・・・ブータンなど

→ブータンの幸せについての9つの項目紹介

質問2 なぜ人はモノをほしくなる?(消費の原理) /それは本当に必要なもの?

例) 見栄、便利、新しいものができるとほしくなる、友人の口コミ、CMの影響など

「消費者」として生きるとはどのようなことなのか

→商品やサービスを買うために働いてお金を稼ぐというシステムの世界に暮らしている

質問3 買物する時に大切にしたい基準を書き出し、ダイヤモンドランキングに入れる。

例) 値段、デザイン、実用性、手触り、色、柄、必要性、安全性、オリジナリティ

質問4 お金より何が大切? 例) 家族、友達、健康、愛、時間、夢

質問5 一番大切なものは何か順位をつける。(家族、友達、勉強、仕事、お金、宗教)

★日本タンザニア共同アンケート

自分の答えを記入し、数人に答えてもらい、タンザニアでの結果と比較し、違いが大きい部分ととても似ていることに気付く。

(3) タンザニアと日本の関係について知ろう

・日本とは宗教や文化、言葉、気候など多くの違いを持つタンザニアについて学ぶ。

→タンザニアの国土、基本情報、キーワードなど質問しつつ、説明。

(オリジナルプリント、東アフリカの地図、貨幣、ティンガティンガ、カンガ、写真使用)



街のオレンジ屋さん



カンガを着る女性たち



道路沿いの野菜販売



日本からタンザニアへ来た自動車



日本の国旗入り送電線



タンザニアのお金

- ・タンザニアと日本との関係について。
 - 経済援助、日本の自動車・電化製品、日本の信号や道路、技術支援、JICA 教師海外研修の様子を10分程度上映（奈良テレビ「ゆうドキッ！」より）
- ・タンザニアのほうが、日本よりも優れている（いい）と思うことについて。
 - 例）文化、人々に活力がある、勉強が学校に対する強い気持ち、自給自足に近い生活
- ・タンザニアで問題となっていることについて。
 - 例）貧困、エイズ、HIV、平均寿命、児童労働、安全な水、教育、
- （5）児童労働と子どもの権利条約、（6）水問題について、個々の問題で取り上げる。

（4）貿易ゲーム

国際理解講座の生徒と合同授業約50名（8チーム）で開催。マーケット役も生徒たちがする。情報操作やPCのある国ない国、国際援助なども導入

生徒の所感

- ・発展途上国は今の上では豊かになれないと思った。
- ・フェアじゃないと思った。
- ・現実世界では、内部情勢、技術者不足、不安定な政治などの多くの弊害が複雑にからまっているので、途上国の発展の本当に難しい点はこのゲームに表れていなかった。
- ・ほかのグループの持っているものを見てあまりの違いに驚いた。
- ・交渉が大変だった。
- ・やる気がたっても、人手や資源、生産手段を持たない不平等さにイライラした。（ふりかえりは10のキーワードに基づいて別時間に行う。）

(5) 児童労働と「子どもの権利条約」

- ・BS世界のドキュメンタリー(潜入報告 インド 児童労働) DVD使用
- ・映像より、問題点と思うことを整理し9つ選び、ダイヤモンドランキングにあてはめる。
- 子どもの権利条約について調べる。(オリジナルプリント参照)
- 子どもの権利条約がきっかけとなり、国際協力は「慈善型」から「権利保障型」に変化
- 生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利の4本の柱を中心に解説
- 世界193の国や地域で批准されているにも関わらず、そのうち、30カ国ほどでしか守られていないという現実。(ユニセフの資料)

(6) 環境・水問題について考える

- ・水に関する、異なる写真をグループごとに提示し、“水”について読み取れることを一言で表現する
- 全く様子の違う写真と一言に驚く生徒も。同じ水でも様々な性質をもつ。
- ・普段の自分の1日の生活を振り返り、水を使う場面、使用量を予測
- 意外に多いことに気づく。無駄な水の使い方、一定額の使用量のための無駄使い。
- ・1日3ℓの水をどのように使用するか、用途ごとの量に優先順位をつけてグループ内発表
- キレイな水(安全な水)とそうでない水に分けて考える、トイレの洗浄水やモノを生産する際の工場で使用する水には気付かない、1日だったら我慢できることで優先順位をつける生徒がいた。
- ・途上国の多くの人々は1日30ℓしか水が使用できないが、その場合に優先すること、今はできているができなくなってしまうことにわけて、考えた。
- 水を無意識に大量に使う生活をしていたことに気づく

全体を通しての生徒の所感

- ・南北問題のような大きな問題に立ち向かうには、ごく一部の人間が動いてもなかなか変えることができない、だからまずは地球に住むすべての人々がこの問題を認識する必要がある。
- ・帰国生でいろいろなものを見てきたつもりなのに現実には全然知らなかったことが多くてショックでした。だから、私はもっと世界の人たちのこと知り何かできることがないかを探してみたいと思います。



- ・学校の授業から離れたときに、きちんとしたところの支援に協力できるか、見極める力があるのか不安になりました。
- ・モノやカネのグローバル化が進むのもいいが、人々の思想や行動こそがもっと世界を意識したものにすべきだと思う。自分自身も事実を「現実」として理解するべきだと思った。

<世界史A>

2学期は交流史を中心にすすめる。その中で、インド洋世界の交流を学び、東アフリカ地域の歴史を深める。ムスリムによるインド洋貿易、ダウ船、奴隷貿易、西欧諸国の植民地化などを紹介。(オリジナルプリント、写真、東アフリカ地図使用)



奴隷貿易



インド洋貿易ルート

- キルワ・マリンディ・モンバサ・ザンジバル・バガモヨなどの港市を紹介
- スワヒリ文化や言語（アラビア語の影響を受けたスワヒリ語）について紹介

- ・1学期の終わりにアンケートを取った際は、タンザニアについての知識はほとんどなく、しかし、学校の様子やクラブ、はやっているスポーツは何か？など、興味のある生徒は多くいた。質問が全く何も思い浮かばないという生徒もいた。
- ・教科書の内容からはかなりかけ離れた内容であったが、事前にタンザニアのアンケートなどもあったため、生徒たちは興味をもって臨めたのではないかと思う。

<その他>

- ・JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2010に（高3現代社会講座22名全員）応募(9月)
- ・文化祭にて、フェアトレード商品の販売と、フェアトレードと現在の経済流通システム(ジーンズ、携帯電話、コーヒーを例に)についてのポスター展示
- ・世界銀行東京事務所による「開発援助標語」に応募(12月)
- ・文化祭にて、アフリカ展とティンガティンガカード、ルカニ村(タンザニア)で作られたフェアトレードコーヒーの販売（中・高ボランティアサービス部）
- ・学内イベントのピースウィークにて、アフリカプロジェクト発表(1月下旬予定)



文化祭での様子

実践授業を通しての所感・反省と今後の改善点

本校の生徒は帰国生徒が3分の2を占めるが、外国に関する知識や生活経験はあるにも関わらず、世界で起こっている様々な問題を知らない、気付かなかったことにショックを受け、問題意識をもつことができたことは、よかった。さらに、世界でおこっている様々な問題について、日本に住む中・高生が想像することは難しい点がたくさんある。生徒たちが日本での恵まれた暮らしや、自分たちの生活様式が基準となって物事を考えてしまうのは当然のことであり、まず、違いに気づき、それを知る・学ぶことの大切なことを意識してもらうことに重点をおいた。歴史的な事柄、世界のしくみができる過程を学ぶと同時に、その時の問題を相手の立場で考えられるような展開を多く取り入れた。いろいろな立場でロールプレイすることで、イライラする気持ちやもどかしい体験を実感し、現実世界ではもっと大変な問題があるのでは？と危機感を持って、授業を受ける生徒もいたことはよかったのではないかと思う。

タンザニアへの体験の伝え方としては、伝えたいことの情報が多すぎて、もっと厳選し、素材をいかすべきだったと反省している。

実践授業を通して、JICAやこの教師海外研修プログラム、青年海外協力隊などに興味を示す生徒もいた。このような授業は大学でも学びたいが、どの学部に進学すれば受けられるのか？という質問があり、将来の選択肢の一つとして国際協力や援助に進む気持ちを持つ者も多くいた。また、この選択授業の生徒が中心となり、校内での有志活動や文化祭での取り組み、学校行事や全校生徒の前での発表への意欲など、自発的な行動が少しずつ出てきたので、自分ができることをこれからもどんどん活かして行ってほしい。

《参考文献》

- 「世界の開発教育」 明石書店 オードリー・オスラー 中里亜夫
- 「開発教育」 学文社 田中治彦
- 「なるほど知図帳 世界2010」 まっぷる
- 「地球データマップ」 NHK出版
- 「身近なことから世界と私を考える授業」 開発教育研究会、明石書店
- 「開発教育キーワード」 開発教育協議会、明石書店
- 「参加型授業で世界を感じる」 開発教育協会
- 「新貿易ゲーム」 明石書店
- 「地球の歩き方 タンザニア」 ダイヤモンド社